レジメンオーダ登録確認表

登録NO. 10c　　登録年月日 2015/1/1

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称（略号）
確認	外科	部長：古池真也		食道癌	FP
作成／確認	薬剤部	藤井友和／西川隆一・辻博幸	/	１クール　２８　日間	標準施行回数：　2コース

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
フルオロウラシル	5-FU	800 mg/m^2	持続静注	24時間		↓	↓	↓	↓	↓																								↓	↓	↓
シスプラチン	CDDP	80 mg/m^2	点滴静注	2時間		↓																												↓		

Rp	補液（名称・用量）	薬剤名・用量	投与速度等
＜前日＞			
1	生理食塩液　2000mL	4本目（開始3時間後から翌日の側管投与開始）	24時間（ﾒｲﾝ）
＜１日目＞			
1	ｸﾞﾗﾆｾﾄﾛﾝ　3mg/100mL	ｱﾛｶﾘｽ 1V ＋ ﾃﾞｷｻｰﾄ 3.3mg 3A（前日の生理食塩液側管から投与）	30分（側管）
2	生理食塩液　50mL	フラッシュ用	適宜（側管）
3	生理食塩液　250mL	ｼｽﾌﾟﾗﾁﾝ　80mg/m^2（ｼｽﾌﾟﾗﾁﾝ開始後5-FU同時投与可）	2時間（側管）
4	ソルラクト　1000mL	5-FU　800mg/m^2	24時間（メイン）
5	ソルラクト　1000mL	（ｼｽﾌﾟﾗﾁﾝ終了後）	4時間（側管）
6	ﾏﾝﾆｯﾄｰﾙS注射液 300mL	（ｼｽﾌﾟﾗﾁﾝ終了後ｿﾙﾗｸﾄと同時に）	2時間（側管）
＜２日目＞			
1	ｸﾞﾗﾆｾﾄﾛﾝ　3mg/100mL	ﾃﾞｷｻｰﾄ 3.3mg 2A	30分（側管）
2	ソルラクト　1000mL	5-FU　800mg/m^2	24時間（メイン）
3	ソルラクト　1000mL		4時間（側管）
＜３～５日目＞			
1	5-FU	5-FU　800mg/m^2	24時間（メイン）
2	ソルラクト　1000mL		4時間（側管）
＜６日目終了時＞			
1	生理食塩液　50mL	フラッシュ用	適宜（メイン）

特記事項	
休薬・減量・中止基準	減量・休薬：Grade2以上の血液・非血液毒性 中止：Grade3以上の血液毒性およびGrade3以上の過敏症
主な副作用とその対策	・悪心嘔吐：5HT$_3$拮抗薬+ｽﾃﾛｲﾄﾞの前投薬 ・腎障害：輸液（2,000mL～3,000mL）
注意事項	・1日目の側管投与は前日の生食側管から投与できるよう時間調節を行う ・シスプラチンのアレルギー確認後は5-FUと同時投与も可能 ・2日目の制吐剤の投与時間は前日の制吐剤の投与時間から24時間後が望ましい
主要文献	・Study-JCOG9204 ・食道癌診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ2007

レジメンオーダ登録確認表

登録NO. 111c　登録年月日 2022/10/6

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称（略号）
確認	外科	部長：古池真也		食道癌	FP ＋ 4w-オプジーボ
作成／確認	薬剤部	澤柳直樹／ 荒木寛也・米山英二	／	１クール　２８　日間	標準施行回数 ： 2コース

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
オプジーボ	－	480 mg/body	点滴静注	30分		↓																												↓		
フルオロウラシル	5-FU	800 mg/m^2	持続静注	24時間		↓	↓	↓	↓	↓																								↓	↓	↓
シスプラチン	CDDP	80 mg/m^2	点滴静注	2時間		↓																												↓		

Rp	補液（名称・用量）	薬剤名・用量	投与速度等
＜前日＞			
1	生理食塩液　2000mL	4本目（開始3時間後から翌日の側管投与開始）	24時間（ﾒｲﾝ）
＜１日目＞			
1	生理食塩液　50mL	ルート充填用 （前日の生理食塩液側管から投与）	適宜（側管）
2	生理食塩液　50mL	オプジーボ　480 mg/body	30分（側管）
3	生理食塩液　50mL	フラッシュ用	適宜（側管）
4	ｸﾞﾗﾆｾﾄﾛﾝ　3mg/100mL	ｱﾛｶﾘｽ 1V ＋ ﾃﾞｷｻｰﾄ 3.3mg 3A	30分（側管）
5	生理食塩液　50mL	フラッシュ用	適宜（側管）
6	生理食塩液　250mL	ｼｽﾌﾟﾗﾁﾝ　80mg/m^2 （ｼｽﾌﾟﾗﾁﾝ開始後5-FU同時投与可）	2時間（側管）
7	ソルラクト　1000mL	5-FU　800mg/m^2	24時間（メイン）
8	ソルラクト　1000mL	（ｼｽﾌﾟﾗﾁﾝ終了後）	4時間（側管）
9	ﾏﾝﾆｯﾄｰﾙS注射液 300mL	（ｼｽﾌﾟﾗﾁﾝ終了後ｿﾙﾗｸﾄと同時に）	2時間（側管）
＜２日目＞			
1	ｸﾞﾗﾆｾﾄﾛﾝ　3mg/100mL	ﾃﾞｷｻｰﾄ 3.3mg 2A	30分（側管）
2	ソルラクト　1000mL	5-FU　800mg/m^2	24時間（メイン）
3	ソルラクト　1000mL		4時間（側管）
＜３～５日目＞			
1	ソルラクト　1000mL	5-FU　800mg/m^2	24時間（メイン）
2	ソルラクト　1000mL		4時間（側管）
＜６日目終了時＞			
1	生理食塩液　50mL	フラッシュ用	適宜（メイン）

特記事項	
休薬・減量・中止基準	減量・休薬：Grade2以上の血液・非血液毒性 中止：Grade3以上の血液毒性およびGrade3以上の過敏症、間質性肺炎(G1)、大腸炎・下痢(G2)、肝機能障害(G2)、神経障害(G2)、腎障害(G2)、重度の皮膚障害(G3)、重症筋無力症・心筋炎・筋炎・横紋筋融解症、１型糖尿病、免疫性血小板減少性紫斑病、副腎障害、脳炎、静脈血栓塞栓症、Infusion reaction、心臓障害（異常が認められた場合）。 （詳細は添付文書を参照してください）
主な副作用とその対策	・悪心嘔吐：5HT$_3$拮抗薬+ｽﾃﾛｲﾄﾞの前投薬 ・腎障害：輸液（2,000mL～3,000mL） ・過度の免疫反応による副作用 他の要因を除外し、必要に応じて専門医と連携するなどし各種副作用の対処法を参考に、本剤の中止、副腎皮質ステロイドの投与、ホルモン補充療法等必要な処置を行う
注意事項	・1日目の側管投与は前日の生食側管から投与できるよう時間調節を行う ・シスプラチンのアレルギー確認後は5-FUと同時投与も可能 ・2日目の制吐剤の投与時間は前日の制吐剤の投与時間から24時間後が望ましい ・オプジーボはDEHPﾌﾘｰのﾌｨﾙﾀｰ付きラインで点滴 ・本剤投与終了後、最終投与日から１ヶ月以上経過してから重篤な副作用が発現する例があるため、投与終了後も経過観察を十分に行うこと。
主要文献	・Study-JCOG9204 ・食道癌診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ2007 ・オプジーボ適正使用ガイド ・国際共同第Ⅲ相 ChecMate648試験 (ONO-4538-50/BMS CA209648)

レジメンオーダ登録確認表

登録NO. 11c　　登録年月日 2015/1/1

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称（略号）
確認	外科	部長：古池真也		食道癌	Low dose FP（FLDP）RT併用
作成／確認	薬剤部	藤井友和／西川隆一・辻博幸	/	１クール　7　日間	標準施行回数：　6クール

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
フルオロウラシル	5-FU	200 mg/m^2	持続静注	24時間		↓	↓	↓	↓	↓	休	休	↓	↓	↓	↓	↓	休	休	↓	↓	↓	↓	↓	休	休	↓	↓	↓	↓	↓	休	休	↓	↓	↓
シスプラチン	CDDP	4 mg/m^2	点滴静注	1時間		↓	↓	↓	↓	↓	休	休	↓	↓	↓	↓	↓	休	休	↓	↓	↓	↓	↓	休	休	↓	↓	↓	↓	↓	休	休	↓	↓	↓

Rp	補液（名称・用量）	薬剤名・用量	投与速度等
＜1～5日＞			
1	生理食塩液　50mL	血管確保用	15分（ﾒｲﾝ）
2	ソルラクト　1000mL	5-FU　200 mg/m^2	24時間（ﾒｲﾝ）
3	生理食塩液　250mL	シスプラチン　4 mg/m^2	1時間（側管）
4	生理食塩液　50mL		ﾌﾗｯｼｭ用（最終日）

特記事項	
休薬・減量・中止基準	減量・休薬：Grade2以上の血液・非血液毒性 中止：Grade3以上の血液毒性およびGrade3以上の過敏症
主な副作用とその対策	・悪心嘔吐：5HT$_3$拮抗薬+ｽﾃﾛｲﾄﾞの前投薬 ・下痢、口内炎、手足症候群：対症療法
注意事項	投与量、スケジュールには様々な報告があります。 JCOCG0303では、通常量と効果、副作用に差がないとされています（放射線同時併用療法での比較）。ASCO（2010）
主要文献	・JCOG0303

レジメンオーダ登録確認表

登録NO. 21c　　登録年月日 2015/1/1

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称（略号）
確認	外科	部長：古池真也		食道癌	3w-DTX
作成／確認	薬剤部	藤井友和／西川隆一・辻博幸	/	１クール　２１　日間	標準施行回数：　有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
ドセタキセル	DTX	70 mg/m^2	点滴静注	1時間		↓							休							休							↓									

Rp	補液（名称・用量）	薬剤名・用量	投与速度等
1	生理食塩液　100mL	ﾃﾞｷｻｰﾄ 3.3mg　2A	30分
2	生理食塩液　250mL	ドセタキセル 70 mg/m^2	1時間
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

特記事項	
休薬・減量・中止基準	減量・休薬：Grade2以上の血液・非血液毒性 中止：Grade3以上の血液毒性およびGrade3以上の過敏症
主な副作用とその対策	・悪心嘔吐：ｽﾃﾛｲﾄﾞの前投薬 ・過敏症：必要に応じてPTXに準じて対応 ・浮腫（蓄積性）：ｽﾃﾛｲﾄﾞの投与を考慮
注意事項	・2015/7/23～ﾄﾞｾﾀｷｾﾙはｱﾙｺｰﾙフリーに変更済 ・泡立ちやすいので調製注意
主要文献	・Muro K, Hamaguchi T, Ohtsu A, Boku N, Chin K, et al. A phase Ⅱ study of single-agent docetaxel in patients with metastatic esophageal cancer. Ann Oncol 2004; 15: 955-959.

レジメンオーダ登録確認表

登録NO. 22c　　登録年月日 2021/7/1

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称（略号）
確認	外科	部長：古池真也		食道癌	w-PTX　（6投1休：100mg/㎡）
作成／確認	薬剤部	荒木寛也／ 澤柳直樹・米山英二	/	１クール　７週間	標準施行回数　：　有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	・・・	8	・・・	15	・・・	22	・・・	29	・・・	36	・・・	43	… 49	1
パクリタキセル	PTX	100 mg/㎡	点滴静注	1時間		↓		↓		↓		↓		↓		↓		休		↓

Rp	補液（名称・用量）	薬剤名・用量	投与速度等
1	―	レスタミン錠10mg　5錠	PTX開始30分前内服
2	生理食塩液　100mL	ﾃﾞｷｻｰﾄ 3.3mg 3A	30分
3	生理食塩液　50mL	ﾌｧﾓﾁｼﾞﾝ 20mg 1A	30分
4	生理食塩液　250mL	ﾊﾟｸﾘﾀｷｾﾙ 100 mg/m^2	1時間

特　記　事　項	
休薬・減量・中止基準	減量・休薬：Grade2以上の血液・非血液毒性 中止：Grade3以上の血液毒性およびGrade3以上の過敏症
主な副作用とその対策	・悪心嘔吐：ｽﾃﾛｲﾄﾞの前投薬 ・過敏反応：H_1、H_2拮抗薬+ｽﾃﾛｲﾄﾞの前投薬 ・筋肉痛、関節痛：NSAIDSの投与 ・末梢神経障害：ビタミン剤の投与、休薬減量 ・脱毛
注意事項	・PTXはDEHPﾌﾘｰのﾌｨﾙﾀｰ付きラインで点滴
主要文献	・パクリタキセル注添付文書 B法 ・Cancer Chemother Pharmaacol(2011)67:1265-1272

レジメンオーダ登録確認表

登録NO. 25c　　登録年月日 2020/6/17

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称（略号）
確認	外科	部長：古池　真也		切除不能進行・再発食道癌	2w-オプジーボ
作成／確認	薬剤部	澤柳直樹／荒木寛也･藤井友和	/	１クール　１４　日間	標準施行回数　：　有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
オプジーボ	ー	240mg/body	点滴静注	30分		↓														↓														↓		

Rp	補液（名称・用量）	薬剤名・用量	投与速度等
1	生理食塩液　50mL	血管確保用	20分
2	生理食塩液　50mL	オプジーボ　240 mg/body	30分
3	生理食塩液　50mL	フラッシュ用	適宜

特　記　事　項	
休薬・減量・中止基準	中止：間質性肺炎(G1)、大腸炎・下痢(G2)、肝機能障害(G2)、神経障害(G2)、腎障害(G2)、重度の皮膚障害(G3)、重症筋無力症・心筋炎・筋炎・横紋筋融解症、１型糖尿病、免疫性血小板減少性紫斑病、副腎障害、脳炎、静脈血栓塞栓症、Infusion reaction、心臓障害（異常が認められた場合）。 （詳細は添付文書を参照してください）
主な副作用とその対策	・過度の免疫反応による副作用 他の要因を除外し、必要に応じて専門医と連携するなどし各種副作用の対処法を参考に、本剤の中止、副腎皮質ステロイドの投与、ホルモン補充療法等必要な処置を行う
注意事項	・オプジーボはDEHPﾌﾘｰのﾌｨﾙﾀｰ付きラインで点滴 ・本剤投与終了後、最終投与日から１ヶ月以上経過してから重篤な副作用が発現する例があるため、投与終了後も経過観察を十分に行うこと。
主要文献	・オプジーボ適正使用ガイド ・オプジーボ固定用量への用法・用量変更

レジメンオーダ登録確認表

登録NO. 26c　登録年月日 2022/12/20

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称（略号）
確認	外科	部長：古池　真也		切除不能進行・再発食道癌	4w-オプジーボ
作成／確認	薬剤部	澤柳直樹 ／荒木寛也･米山英二	/	１クール　２８　日間	標準施行回数　：　有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
オプジーボ	ー	480mg/body	点滴静注	30分		↓																												↓		

Rp	補液（名称・用量）	薬剤名・用量	投与速度等
1	生理食塩液　50mL	血管確保用	20分
2	生理食塩液　50mL	オプジーボ　480 mg/body	30分
3	生理食塩液　50mL	フラッシュ用	適宜

特　記　事　項	
休薬・減量・中止基準	中止：間質性肺炎(G1)、大腸炎・下痢(G2)、肝機能障害(G2)、神経障害(G2)、腎障害(G2)、重度の皮膚障害(G3)、重症筋無力症・心筋炎・筋炎・横紋筋融解症、１型糖尿病、免疫性血小板減少性紫斑病、副腎障害、脳炎、静脈血栓塞栓症、Infusion reaction、心臓障害（異常が認められた場合）。 （詳細は添付文書を参照してください）
主な副作用とその対策	・過度の免疫反応による副作用 他の要因を除外し、必要に応じて専門医と連携するなどし各種副作用の対処法を参考に、本剤の中止、副腎皮質ステロイドの投与、ホルモン補充療法等必要な処置を行う
注意事項	・オプジーボはDEHPﾌﾘｰのﾌｨﾙﾀｰ付きラインで点滴 ・本剤投与終了後、最終投与日から１ヶ月以上経過してから重篤な副作用が発現する例があるため、投与終了後も経過観察を十分に行うこと。
主要文献	・オプジーボ適正使用ガイド ・オプジーボ固定用量への用法・用量変更

レジメンオーダ登録確認表

登録NO. 28c　　登録年月日 2022/10/6

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称（略号）
確認	外科	部長：古池　真也		切除不能進行・再発食道癌	3w-オプジーボ ＋ 6w-ヤーボイ
作成／確認	薬剤部	澤柳直樹／ 荒木寛也･米山英二	/	１クール　４２　日間	標準施行回数　：　有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2	3	・	・	・	20	21	22	23	24	・	・	・	41	42	43	44	45	・	・	・	62	63	64	65	66	・	・	・	・
オプジーボ	ー	360mg/body	点滴静注	30分		↓								↓								↓								↓						
ヤーボイ	ー	1mg/kg	点滴静注			↓																↓														

Rp	補液（名称・用量）	薬剤名・用量	投与速度等
1	生理食塩液　50mL	血管確保用	20分
2	生理食塩液　50mL	オプジーボ　360 mg/body	30分
3	生理食塩液　50mL	経過観察用	30分
	生理食塩液　50mL	ヤーボイ　1 mg/kg	30分
		（最終濃度1～4mg/mLに調製）	
3	生理食塩液　50mL	フラッシュ用	適宜

特　記　事　項	
休薬・減量・中止基準	中止：間質性肺炎(G1)、大腸炎・下痢(G2)、肝機能障害(G2)、神経障害(G2)、腎障害(G2)、重度の皮膚障害(G3)、重症筋無力症・心筋炎・筋炎・横紋筋融解症、１型糖尿病、免疫性血小板減少性紫斑病、副腎障害、脳炎、静脈血栓塞栓症、Infusion reaction、心臓障害（異常が認められた場合）。 （詳細は添付文書を参照してください）
主な副作用とその対策	・過度の免疫反応による副作用 他の要因を除外し、必要に応じて専門医と連携するなどし各種副作用の対処法を参考に、本剤の中止、副腎皮質ステロイドの投与、ホルモン補充療法等必要な処置を行う
注意事項	・オプジーボ・ヤーボイはDEHPﾌﾘｰのﾌｨﾙﾀｰ付きラインで点滴 ・本剤投与終了後、最終投与日から１ヶ月以上経過してから重篤な副作用が発現する例があるため、投与終了後も経過観察を十分に行うこと。
主要文献	・オプジーボ適正使用ガイド ・オプジーボ・ヤーボイ投与ガイド ・国際共同第Ⅲ相 ChecMate648試験 （ONO-4538-50/BMS CA209648）

レジメンオーダ登録確認表

登録NO. 40c　　登録年月日 2022/11/29

	診療科	氏名	印	がん種	レジメン名称(略号)
確認	内科	部長 : 山本富美子		食 道 癌	FOLFOX (適応外)
作成／確認	薬剤部	荒木寛也／ 澤柳直樹・米山英二	/	1クール　14　日間	標準施行回数 :　有効時継続

薬剤名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
ロイコボリン	ℓ-LV	200 mg/m^2	点滴静注	2時間		↓														↓														↓		
エルプラット	L-OHP	85 mg/m^2	点滴静注	2時間		↓														↓														↓		
フルオロウラシル	5-FU	400 mg/m^2	急速静注	5分		↓														↓														↓		
フルオロウラシル	5-FU	2400 mg/m^2	持続静注	46時間			↓														↓														↓	

Rp	補液(名称・用量)	薬剤名・用量	投与速度
1	ｸﾞﾗﾆｾﾄﾛﾝ 3mg/100mL	ﾃﾞｷｻｰﾄ 3.3mg 2A	30分
2	5% ﾌﾞﾄﾞｳ糖液 200mL	ｱｲｿﾞﾎﾞﾘﾝ 200mg/m^2 同時投与	2時間
3	5% ﾌﾞﾄﾞｳ糖液 200mL	ｴﾙﾌﾟﾗｯﾄ 85mg/m^2 同時投与	2時間
4	生理食塩液 50mL	5-FU 400mg/m^2	同時投与終了後に全開で
5	5% ﾌﾞﾄﾞｳ糖液 適量	5-FU 2400mg/m^2	携帯型持続ﾎﾟﾝﾌﾟで46時間かけて

携帯型持続ﾎﾟﾝﾌﾟの5%ﾌﾞﾄﾞｳ糖は5-FUとの合計で96mLとする

※入院の場合
持続5-FU:2400mg/㎡/生食1000mLx1回(46時間かけて)

特　記　事　項	
休薬・減量・中止基準	休薬:DEB-NTC Grade2以上の末梢神経障害 減量:Grade2以上の血液・非血液毒性 中止:Grade2以上の血液毒性およびGrade3以上の過敏症
主な副作用とその対策	・悪心嘔吐:5HT$_3$拮抗薬+ｽﾃﾛｲﾄﾞの前投薬 ・過敏反応:H$_1$、H$_2$拮抗薬+ｽﾃﾛｲﾄﾞの前投薬 ・末梢神経障害:寒冷刺激の指導およびStop＆Goの考慮
注意事項	エルプラットの希釈は5%ﾌﾞﾄﾞｳ糖液に限る 2020.4携帯型持続ﾎﾟﾝﾌﾟ変更(ﾊﾞｸｽﾀｰからﾆﾌﾟﾛ)のため、希釈液と合計容量変更
主要文献	Tournigand C, et al. J. Clin Oncol 2004;22:229-37. Goldberg RM, et al. J. Clin Oncol 2004;22:23-30. 社会保険診療報酬支払基金 2019/4/22発表「第20次審査情報提供事例(医科)追加」:FOLFOX療法の食道癌への投与を「原則として、審査上認める」